

学部の成績評価

① 成績評価

成績の評価は、原則として試験、平常の成績及び出席状況を総合して、100 点満点、60 点以上を合格とする素点による評価またはレターグレード（S、A、B、C、D（不合格））による評定で評価されます。成績通知票・成績証明書には合格科目それぞれについて以下のとおり記載されます。

レターグレードと評点区間、及び評価基準の対応関係は次のとおりです。

S（90 点以上）： 基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている。

A（90 点未満～80 点以上）： 基本的な目標を十分に達成している。

B（80 点未満～70 点以上）： 基本的な目標を達成している。

C（70 点未満～60 点以上）： 基本的な目標を最低限度達成している。

D（60 点未満不合格）： 基本的な目標を達成していないので再履修が必要である。

成績評価は上記の評価基準のほか、S評価を評価対象者の15% 以内（履修者数が10 人未満の場合は2名以下）に留める

ことを目安にした評価基準を設けて評定されます。履修放棄によって評定できない場合はD（不合格）となります。授業科

目によって素点評価がなされる場合とレターグレードで評定される場合がありますが、後者の場合はつぎの規定により評点

が定まります。

S=95、A= 85、B= 75、C= 65、D（不合格）= 55

② GPA制度

本学は学生の視点に立った教育改革を推進するため、米国やアジア諸国で行われているGPA（Grade Point Average）制度を導入しました。この制度は、各学生の授業科目ごとの成績評価を一定の方法でグレードポイント（GP）に置き換え、そのGPに該当の科目の単位数を乗じて、それを履修数分合算し、その値を登録科目総単位数で割って算出するものです。

GPA制度は単位数という学習の「量」だけではなく、成績評価に基づく「質」について保証するものです。GPAにより、学期（セメスター）毎の学習の成果がより明確となり、学生の学習意欲の向上や履修登録の自己規制、さらに各自の努力目標が具体的になることなどをねらいとしています。ここでは、学生にとって、大切と考える目的や効果を3つあげます。

1) 学ぶ意欲がいっそうに増す

個々の科目における学習改善努力が成績に反映しやすくなります。これまでは成績評価が5段階のみであらわされ、粗かったため、多少の努力のほどは成績評価値になかなか反映されませんでした。

GPAでは科目の試験やレポートの素点評価がリアルに成績に反映するので、学習努力の違いが成績差異としてはっきりみえやすくなります。したがって、自分自身の成績改善に向けての動機が高まり、授業への積極的な参加意欲が増すことになるでしょう。

また、単に単位の修得だけでなく、よりよい成績をとることの意味が実感できるようになります。

2) 不合格を避け、しっかり履修

GPAの算定ではある科目が不合格になると、そのGPは0で、しかもGPA算定の分母にはその科目の単位数が加算されます。そのため、不合格をとると最終的なGPAの値に大きなダメージを負います。

これまでのように不合格科目は成績証明書に記載されず、必修科目でない限り何の損失も被らないというようなことはなくなります。ただし、一度不合格になった科目でも再履修してあらためて合格の成績をとれば、その新たな成績が上書きされてあらためてGPA算定がなされます。

ともあれGPA制度のもとでは、履修した科目は不合格にならないように気をつけることが大事になります。そのためには、科目履修の際に必要な以上に多くの科目を履修してあとで負担にならないよう十分留意し、計画的な履修をすることが大切になります。

3) 自分の成績の位置づけがわかるとともに各種選考基準の透明性が増す

学期ごとに学科目のGPやGPA値を確認しながら、学内での自分の成績の相対的な位置づけを確認していくことができます。さらに、今後、奨学金の貸与基準、特定の科目の履修基準、種々の学内選考の際の基準指標などにGPA値が使われるようになりますので、目指すべき成績について具体的な目標を設定しやすくなります。

また、就職や留学、進学など対外的な場面で、この値が求められても対応できることになります。

③ GPAの算定方法

GPAは、授業科目ごとの成績評価（100点満点の素点評価SS）をつぎに示した1)の算定方法でGPに置き換え、つぎに2)の算定方法で、そのGPに該当の科目の単位数を乗じて、それを履修科目数分合算し、その値を履修総単位数で除することにより求めます。

1) $GP = (SS - 55) / 10$ ただし、 $GP < 0.5$ は $GP = 0.0$ とする。

SSは100点満点の素点評価

2) $GPA = (\text{履修科目のGP} \times \text{当該科目の単位数}) \text{の総和} / \text{履修総単位数}$

・履修総単位数には不合格となった科目（GP=0）の単位数も含まれる。

④ 2つのGPA指標（f-general GPAとf-strict GPA）の併用

本学ではGPAの機能特性を十全に発揮させ、かつ国内外の大学との通用性を確保するため、f-strict GPAとf-general GPA（fはfunctionalの略）、2つの指標を併用します。

f-strict GPAは現在、多くの大学で採用されているGPAと実用上、十分な互換性もっていることが検証済みです。

しかし、成績のトップゾーンにかぎってはとくに米国と我が国の多くの大学においてGPAの最高点を4.0、合格域の最低点を1.0にしているのに対して、f-strict GPAでは最高点が4.5、最低点が0.5になります。そこで他機関との通用性を優先して、本学で

は対外的に用いるGPAとしてf-strict GPが点4.0以上の値(100点満点換算で95点以上)を一律4.0、1.0以下、0.5以上の値を一律1.0にしたf-general GPも用います。

一方、学内でGPAを種々の用途に使う場合には(成績の全範囲について原成績を忠実に反映する)f-strict GP(A)を用います。

<事例>

functional GPA算定の例示

○5科目17単位分の場合のGPとそのアベレージがどのように求められるか

科目名	単位数	成績評点	LG	f-strict GP	f-strict GP×単位数	f-general GP	f-general GP×単位数
地理概論	2	84	A	2.90	5.80	2.90	5.80
地学	2	98	S	4.30	8.60	4.00	8.00
地学演習	4	50	D	0.00	0.00	0.00	0.00
地学実験	1	66	C	1.10	1.10	1.10	1.10
卒業研究	8	70	B	1.50	12.00	1.50	12.00
計	17				27.50		26.90

5と7カラム目のGPは次式で求めます。成績評点は100点満点ですが、科目によっては小数点以下の値をもった評価もありえます。

$$GP = (\text{成績評点} - 55) / 10 \quad (\text{ただし、} GP < 0.5 \text{ は} GP = 0.0 \text{ とする})$$

最後に、 $GP = \sum (GP \times \text{当該科目の単位数}) / \text{履修総単位数}$ ですので、上例では、

$$f\text{-strict GPA} = 27.50 / 17 = 1.617$$

$$f\text{-general GPA} = 26.90 / 17 = 1.582 \text{ となります。}$$

★留意点

・ 上例の値は段階評価でいえば、良のゾーンの下限近くに相当します。ですから、上例は全体としてあまりよくない成績の事例です。

・ 上例では地学演習(通年4単位)で不合格をとっているため、GPが0となり、しかも単位数が相対的に大きかった科目であるため、GPAが大きく損失しています。仮に、この科目で80点をとっていれば、f-strict GPAは2.205でした。

・ ちなみに、よく学ばれて各科目で比較的良好な成績をとった好ましい例もシミュレーションしておきましょう。

科目名	単位数	成績評点	LG	f-strict GP	f-strict GP×単位数	f-general GP	f-general GP×単位数
地理概論	2	84	A	2.90	5.80	2.90	5.80
地学	2	98	S	4.30	8.60	4.00	8.30
地学演習	4	80	A	2.50	10.00	2.50	10.00
地学実験	1	90	S	3.50	3.50	3.50	3.50
卒業研究	8	85	A	3.00	24.00	3.00	24.00
計	17				51.90		51.60

$$f\text{-strict GPA} = 51.90 / 17 = 3.052$$

f-general GPA = $51.60 / 17 = 3.035$

米国の損保会社にはGPAが3.0以上の成績をもつ学生の自動車保険料を25%割引にするなどの特典を設定しているところがあります。この値がもつ社会的通用性の一面をあらわしています。

⑤ GPA算定の対象科目

他大学などでの履修（留学を含む）や本学における評価でレターグレードや素点ではなく、単位認定として評価される科目や「合否・不合格」による評定で成績がでる科目を除く総ての科目が対象になります。

⑥ GPAの算定期日

GPAの算定は、GPA算定基準日までに確定した成績に基づいて行います。算定基準日は原則、前期は9月15日、後期は3月20日です。前期に算定される科目は、当該年度の前学期、第1学期、第2学期で履修した科目を含めた入学して以降の全履修科目です。後期に算定される科目は、当該年度の後学期、第3学期、第4学期、通年で履修した科目を含めた入学して以降の全履修科目です。

⑦ 成績通知票・成績証明書への記載

成績通知票や成績証明書にはその趣旨説明とともにf-strict GPA、f-general GPA 両指標を併記します。また、GPA算定方法の説明や「不可」評価の単位数を記載し、成績とGPA間の整合性を明白にします。

⑧ 成績評価情報に関する利用について

試験により、取得した成績評価（GPA 制度によるものを含む）は、本学成績評価情報に関する利用ガイドラインの定めに従い、個人情報保護を徹底した上で、調査・研究あるいは学生支援に利用することがあります。